

法人名 特定非営利活動法人 ほんじょう寺子屋

事業計画書

事業名	空き店舗を僕らの拠点に 事業
種類	(1) SDGs 推進事業 (人間 <u>豊かさ</u> 地球 平和 パートナシップ) (2) 自立促進事業 (人間 <u>豊かさ</u> 地球 平和 パートナシップ)
1. 事業の目的	<p>令和元年 5 月 1 日に学生主体のまちづくり団体、ほんじょう寺子屋を設立、令和 3 年 7 月 26 日 NPO 法人化。</p> <p>これまで、3 年間、青少年育成事業として、小学校の長期休みに、地域のお寺を 1 日お借りして寺子屋体験、コロナ禍で寺子屋体験が出来ない時には、オンライン寺子屋の開催。他にも寺子屋体験の開催需要が多いなか、半日程度開催する寺子屋食堂の実施等、多くの子ども達と向き合ってきたなか、長期休みの思い出作りや、誰もが気軽に通える居場所や学びの場、安価で腹を満たせる場の必要性を感じた。</p> <p>※寺子屋体験は、令和元年 8 月の初回からこれまで、全て定員オーバーの申し込みがある。</p> <p>また、令和 2 年 3 月には地域住民に対して SDGs セミナーを本庄市では一番初めに開催し、地方創生や、地域課題に対する問題意識の醸成を図ることで、我々の活動である青少年育成事業の他にも、空き家問題、孤食、貧困、居場所がない等、様々な地域課題があることを学んだ。</p> <p>そこで、地域にある空き店舗を安価でお借りし、学生達の拠点とすると共に、子ども達が気軽に集える駄菓子屋と子ども食堂の運営を行うことで、空き家問題、地域コミュニティの希薄化、孤食、貧困、居場所等多くの課題解決の一助となる。</p> <p>4 年目を迎える現在、これまで参加した児童が、高校生になったら寺子屋のスタッフになりたいと言ってくれている。この正のスパイラルが持続可能な本庄市へと導いていくことになる。</p>

2. 事業の内容

駄菓子屋作りと子ども食堂「てらこや食堂」の運営事業

①趣旨

学生達で改修、清掃等を行い、自らの手で店、居場所づくりを行う。また、駄菓子屋の开店準備には、小学生を募り、店内ポップやのれん、のぼり旗を作成。また学生達と商品棚の制作をし、一緒に店づくりを行う。また事業で撮影した写真を店内に飾り参加者に配布する。

店内には、畳の部屋もあり、駄菓子を食べたり、学生に勉強を教えてもらったりできるスペースもあるので、平行して子ども食堂を開催。子ども食堂は、食事を食べるだけではなく、夏休みの宿題を学生達に教えてもらいながら行う。

※別紙にて店舗間取りを添付してあります。

②時期

令和4年7月から店舗の改修、掃除を行い、夏休みに向けて駄菓子屋のオープンを目指す。

てらこや食堂は、夏休み中に2回開催する。

③対象者 市内在住の小学生、高校生、大学生。

④場所 本庄市銀座1-6-21

⑤参加見込人数 100名

<p>3. 実施計画</p>	<p>(1) 店舗の掃除、駄菓子棚の設置準備。</p> <p>(2) 7月から賃貸契約が始まるため、オープンに向け上記を行う。</p> <p>○スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="472 360 1326 757"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>店内改修、清掃 駄菓子屋オープン</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>てらこや食堂開催（2回）</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○広報計画</p> <p>ほんじょう寺子屋のホームページ、Instagramでの情報発信、ほんじょう寺子屋公式LINEで店舗の掃除や駄菓子のポップ作り等を募集する。</p>	時期		7月	店内改修、清掃 駄菓子屋オープン	8月	てらこや食堂開催（2回）	9月		10月		11月		12月		1月		2月	
時期																			
7月	店内改修、清掃 駄菓子屋オープン																		
8月	てらこや食堂開催（2回）																		
9月																			
10月																			
11月																			
12月																			
1月																			
2月																			
<p>4. 実施体制</p>	<p>総括責任者 ・横尾 幹</p> <p>連絡、現場、経理責任者 ・矢野間 規</p> <p>広報担当者 ・福島 基矢・山藤 彩華・新井 里奈</p>																		
<p>5. 事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・跡取りのいない空き店舗問題解決の一助になる。 ・過疎化している商店街の一角に、子ども、若者が集い地域の活性化の一助となる。 ・これまで、ほんじょう寺子屋の事業に参加してくれた子ども達や、まだ参加出来ていない子ども達がいつでも集える場所となり、子ども×学生×地域コミュニティの相乗効果が期待でき、育ったまちへの地域愛の醸成を図ることができる。 ・子ども達が、高校生、大学生になった時、ほんじょう寺子屋のスタッフとして活躍することで、持続可能な運営が期待できる。 ・写真展示を行うことで、ほんじょう寺子屋の事業に参加したことがない、子どもや保護者が当法人に興味、関心をもていただくことで子どもの居場所をみつける機会となる。 ・大学等でも空き家の課題解決に向けての講座や事業はあるが、実社会において、自分たちでお金を集め、稼ぎ、継続的にまちづくりを運営し次世代に繋ぐことが体験できる事業は日本でも稀であり、社会へ出たときの糧となる。 																		

6. 今後どのように事業を継続し発展させるか
※自立促進事業のみ

- ・駄菓子屋の運営において、学生が対応出来ない時間などは、地域の高齢者にボランティアとして活躍していただく。駄菓子の販売方法は、購入者が自分で金額を計算する仕組みなので、店番は金銭の受け渡しと世間話のみとなる。
- ・子ども食堂の運営費として、寄付を募るほか、大人に1枚200円チケットを販売し、その売り上げ全てを子ども食堂の運営費に充てる。
- ・これまでは、事業を開催するときにしか子ども達と会う機会が無かったが、店舗があることで、施設の予約等の準備も軽減でき、ほんじょう寺子屋として、子ども食堂を含む、多くの事業が開催出来ることになる。
- ・当法人の知名度がさらに向上することにより、駄菓子屋への利用が見込まれる。
- ・駄菓子の利益は少ないが、今後の事業を行った後には、その事業の写真を掲示し、安価で販売し、相乗効果を図る。その利益を今後は、法人の運営費にすることで、今後さらに大きな事業計画を作っていくことで本庄市をもっと笑顔あふれるまちへと発展させる。